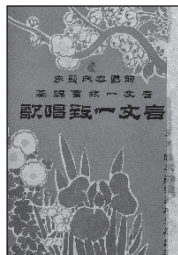


げんぶんいっちしょうか

## #9 言文一致唱歌

編纂：言文一致會（げんぶんいっちかい）

刊行：明治36年（1903）



### ♪ 解題

#### ■ 内容

『言文一致唱歌』は、言文一致の歌詞を全国から懸賞募集して20編を選んで刊行したものである。三百数十編の応募の中から、審査を、石原和一郎、吉田彌平、三矢重松、新村出、渋谷愛の5氏と、幹事の後藤牧太、千田時次郎が行った。曲譜は、東京高等師範学校の鈴木米次郎の他、東京府師範学校の野村成仁と山形縣師範学校の稲岡美賀雄に作曲を依頼した。数ヶ月をかけて十分に審査を行い、20編の唱歌を選定した。

「本書はただ言文一致唱歌の端緒を開いたのであるが、言文一致の普及を計る助けとなれば、本會の幸とするところである。」とのはしがきがある。

明治35年(1902)4月17日の国民新聞には「言文一致の唱歌 懸賞募集」の見出しで、募集期限や賞品、40首を撰定することなどが掲載されている。

#### ■ 作者

本書の奥付では「帝國教育會内言文一致會」となっている。この会は、言語学者と言文一致賛成者が集まって、明治33年(1900)に帝國教育會内に発足した。明治35年の会誌に掲載された名簿には上田万年、大槻文彦、新村出、白鳥庫吉、保科孝一といった名前があり、言語研究者のほとんどが、この会に参加していた。明治34年に「言文一致の実行についての請願」書を貴衆両院に提出して可決させ、また、全国連合教育會に「小学校の教科の文章は言文一致の方針によること」の議案を提出して可決させた。

言文一致會は、明治43年(1910)に、一定の成果を成し目的を達成したとして解散した。

## ■ 収録曲

大きな御馬/みいちゃん/練兵/まりあそび/いぬころ/むし/金魚/あめ/ちよーととんぼ/雀/海水浴/鶯雛/夕立/まはれ/凧車/春の野あそび/水蒸気/四季/親の情/大人になったら

## ■ 言文一致（運動）

「言文一致」とは、「書き言葉（文）を話し言葉（言）に可能な限り一致させること」であり、「言文一致運動」とは、それを推奨する運動であった。

言文一致の動きは、まず国文の動きに始まった。明治初期の文章は、江戸時代の文章をそのまま受け継いだ文語文で、話し言葉とはかけ離れていた。このため、口語文・口語体を用いる主張が強まり、本書の題字を書いた前島密が將軍徳川慶喜に建白した「漢字御廃止の議」（1866）を始まりに、西周などの学者の論じ合いや、二葉亭四迷、山田美妙らの言文一致の試みが広まった。やがて明治 19 年（1886）に物集高見が『言文一致』を刊行して論じたのが「言文一致」という名称の誕生である。

国文の動きに影響されて、明治 30 年代には、教育界、唱歌の世界にも言文一致の機運が高まり、本書の他、田村虎蔵らによる言文一致唱歌が作られていった。

言文一致の運動は明治 43 年（1910）に言文一致会が解散した時期にほぼ終わりを迎えた。

## ♪ 参考文献

- ・山本正秀「前島密の漢字廃止建白と言文一致活動」（『言語生活』no. 198 筑摩書房 1968）[Z805/1]
- ・『言文一致唱歌の創始者 田村虎蔵の生涯』丸山忠璋著 音楽之友社 1998 [289. 1/3665]
- ・『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』松村直行著 和泉書院 2011 [767. 7/240]